

# 平成22年度第1回岐阜県入札監視委員会議事概要

平成22年6月18日(金)  
議会東棟3階 執行部控室

## 【県建設発注工事、資格停止の運用状況等に関する質疑応答】

(質疑なし)

### 【抽出事案に関する質疑応答】

#### 1 公共 火山砂防事業 滝ヶ洞谷

Q：今年度先行して行われた工事と、今回の工事は同じ業者か。

A：先行して行われた工事は年度当初の一般競争入札で業者が決まったものであり、今回の工事は結果的に同じ業者になった。

Q：入札額が接近しているが、この工事は見積りやすいものか。

A：コンクリート工がほとんどであり、簡単に積算しやすい工事である。地元業者を指名しており、遠くから材料を運ぶこともないので、あまり差が出ない。

Q：B等級が白鳥町内に10者あるが、そのうちの8者しか指名していない理由は何か。

A：1者は建築、もう1者は電気工事が中心の会社であり、土木の実績がないので指名しなかった。

#### 2 公共 地域活力基盤創造交付金(街路事業)、県単地方特定道路整備事業(街路)248号

Q：辞退した業者の辞退理由は。

A：聞き取りはしていないが、年度末であり、手持ち工事があつたと推測される。当事務所発注の少し大きな工事も行っていた。

Q：地域要件の項目では、7~2.5点まで差が大きくなっている。

A：ボランティア活動などの項目では、当事務所管内での実績を満点の評価としており、点数の差が大きくなる。

Q：安全対策の項目でマイナス点が付いている業者がある。

A：過去に工事事故等による資格停止措置があつたのでマイナスになっている。事故等を起こすとその後に影響するため、安全対策に取り組んでもらっている。

Q：技術所見を高く評価することはよいと思うが、客観性があると言えるか。

A：技術所見の評価の際には、業者名を伏せて先入観が入らないようにしており、総合評価委員会で公平に評価している。

#### 3 公共 橋梁補修、公共 地域活力基盤創造交付金(橋梁補修)

Q：公共工事が減っている中で、特殊な工事であるため参加申請が3者しかなかったのか。

A：特殊な工事ではなく、最近全国的に行われている落橋防止工事であり、今回入札可能な業者は19者ある。この工事は各地域で行われており、当事務所でも何カ所か発注している。

Q：1億円は予定価格の1つのラインになるが、ぎりぎり収まるように調整していないか。

A：1億円を超えると1つ上のランクになるが、作為的に1億円未満にしたわけではない。通行している橋の改修なので、交通整理や施工が難しい面があるが、歩掛かりでも割り増ししている。

Q：辞退した1者の理由は何か。

A：当事務所で同時期に発注した別の工事を落札しており、両方の工事ができないので1つに絞ったもの。

Q：対象が19者ある中で、2者しか参加していない。99%という入札率は高すぎないか。

A：公共工事の減少により、大手の業者では、岐阜支店を引き上げているところもある。一般競争では原則20者が参加可能であることが必要であるが、岐阜県では今年度から発注基準を改正して、

橋梁上部工の地域要件を撤廃し、参加可能性を増やしている。

#### 4 県営かんがい排水事業 岐阜中流地区 第43期用水路工事

Q： 前の工事では、地域住民への説明や調整に時間がかかり、十分な工期が確保できず途中で工事を精算したということだが、普通は地元の了解を得てから工事を始めるのではないか。

A： 公道の下にパイプを埋設する工事であり、用地買収を行わない事業である。ただし、地元の方の了解を得るため説明会等を行い、最終的な了解を得るまでに時間がかかった。

Q： 事故繰越を安易に考えていたのではないか。結果として前の工事と入札率が同じだったが、入札率が高くなったら、県民に損害を与えることになる。

A： 工事を打ち切る際には、発注者と受注者で協議して減額変更をしている。業者は前の契約の全体を把握しているので、同じ入札率となった。

#### 5 交通信号機新設等工事

Q： 信号機の工事は毎年あると思うが、辞退が多いのか。

A： ここ数年は辞退者が多いが、全社辞退は初めてのことである。アンケートを行ったところ、辞退した10者中8者は、他の工事と重複したため技術者の配置が困難という回答であった。最近是一般競争が多くなり、技術者の専任配置が条件になっている。2500万円を超えると技術者の専任が必要になる。また、県では発注計画を示しているのだから、業者もある程度仕事を選択している。

Q： 工事の内容が3種類あり、工事場所も広範囲である。まとめて発注するメリットがあるのか。

A： 1カ所ずつ発注すると少額になり、入札に参加してもらえない。発注者の技術者も少ないので、細かく分割すると相手が増えて、現場の精度も落ちる。

Q： 公共工事の仕事が減っている現実を考えると、辞退が多い理由がわからない。技術者が少なくなっているのか。信号機の工事が特殊であるのに、予定価格が安いということはないか。

A： 数年前に、3～4件連続して低入札調査対象になったので、見積りの掛け率をチェックして予定価格を見直したところである。技術者の数は、数年前と比べて約3割減っている。

Q： 辞退者が多く、応札者が少ない場合、一般的には入札率が高くなると思われる。

A： 今回請け負った業者は、別の工事でも受注しており、資材をまとめて安く購入できるというのが今回低入札となった理由であった。

Q： 発注時期が年度末であることが、辞退が多くなる原因ではないか。

A： 信号機は、道路工事に合わせる必要があり、どうしても年度末になる。また電柱に共架しているものは、中電やNTTの都合で急に移設工事が発生する。

#### 6 岐阜県総合医療センター外構整備電気設備工事

Q： 入札金額と総合評価点数とのバランスは取れているか。また、総合評価の客観性や透明性は確保されているか。

A： 金額で競っている場合、評価点数は大きなウエイトを占める。総合評価は、要領等に基づき総合評価審査会で学識経験者の意見を聴いたうえで慎重に行っている。

#### 7 道整備交付金 林道 揖北線開設工事

Q： 「下位の業者まで参加資格を広げた」とはどういうことか。

A： 一般競争では原則20者以上の業者が参加可能である必要があるが、A等級の業者が15者であったため、門戸を広げるためB等級24者を含めて、参加可能な業者は計39者となった。その中で18者から参加申請があった。

Q： 今回の抽出事案は、参加が少ない案件ばかりだったが、この工事は参加者が多い。

A： 発注が3月であり、手持ちの仕事がなくなってくる時期ということが考えられる。

Q： この工事は一般的な内容であると思うが、入札率が93～98%と近接している。

A： 地理的にも山の奥地で、崩落が発生するような厳しい現場であり、経費のかかる工事であるということが考えられる。